

<先週の説教から>

『詩編 57 — 暁(あかつき)を呼び覚まそう!』

武田真治牧師

詩編 57:1~12 マルコ福音書 1:35~39

この詩編のト書き(1節、英語ではタイトル)には「ダビデの詩。ミクタム。ダビデがサウルを逃れて洞窟にいたとき」という説明が付けられています。ダビデがまだ王様に就いていない時、サウル王から命を狙われ軍隊を派遣されて、逃げ場所として洞窟(ほら穴)に身を隠したことが、聖書には2度もあったと記されています。厳しい状況と緊張感がこの詩編の前半にはよく表されています。冒頭2節の「憐れんでください。神よ、わたしを憐れんでください」という言葉も、憐れみ(=ハーナン)を重ねて2回も乞うている言葉は、詩編ではとても珍しいものです(ここと詩編 123 篇)。また5節の「わたしの魂は獅子の中に、火を吐く人の子ら(=アダムの子孫)の中に伏しています」と、いかにも見つかってしまえば、すぐに食べられてしまう餌にしかすぎないと、自分が残虐に殺されるしかない存在であることを神様に必死に訴えている言葉が連なっているのです。

ところが、後半の8節からは一転して「神よ、わたしは心を確かにして、あなたに賛美の歌をうたいます。」という讚美の言葉に変わります、そして、「目覚めよ、豎琴よ、わたしは暁(あかつき=朝日が昇ること)を呼び覚まそう。」という力強い決意の言葉を語っているのです。この変化は、何によってもたらされたのでしょうか? ここがとても大事な点ではないかと思えます。

上記のような転換をもたらした出来事が、8節の直前の7節に記されていると読むことができます。即ち「わたしの魂は屈み込んでいました。彼らはわたしの足もとに綱を仕掛け、わたしの前に落とし穴を掘りましたが、その中に落ち込んだのは彼ら自身でした。」です。これは簡単に言えば、相手が色々と画策したのに自失した事を指します。自分が何か頑張って事態を解決させたというわけではありませんし、また、今の状況が完璧に好転したという訳でもないのです。ただ、

敵が自らの愚かによって勝手に失敗した(=墓穴を掘った)ことに、実は神様が働いてくださった、自分を救い出そうとしてくださっている兆しを見たのです。故に、『自分は大丈夫、なんとかなる』と、神様の御導きを信じて、前を向いて生きて行こう(=自らの新しい朝を迎えよう)と“思い直しで”先ほどの8節以下の讚美へと向かっているのです!

代々のキリスト者は、この詩編の中にある「天から遣わしてください。慈しみとまことを。」という“祈り”を救い主イエス様の到来を願うダビデの“祈り”と受け止めて来ました。それがヨハネ福音書1章14節の「言は肉となって、わたしたちの間に宿られた。わたしたちはその栄光を見た。それは父の独り子としての栄光であって、恵みと真理(ヘセドとエメット=慈しみとまこと)とに満ちていた。」なのです。

【今週の集会】

- *聖書研究・祈祷会 I. 2月4日(水) 20:00
- II. 2月5日(木) 10:30

聖書研究: ヨブ記

祈祷主題: 信教の自由を守る2・11集会を覚えて

担当者: (水) NE (木) KA

祈りに覚える人 OKさん KAさん

*カフェひつじ雲 2月7日(土) 11:00~

【教勢報告】

主日礼拝 男13 女48 計61
 祈祷会 I. 男4 女3 計7 II. 男1 女5 計6
 日曜学校 幼稚科7 小中科7 計14

【次週礼拝】

2月 8日(日)
 聖書: イザヤ書 65:1~5
 ルカによる福音書 8:26~33
 説教: 「ルカ68—悪霊に打ち勝つ方法!」
 武田真治牧師
 讚美歌: 575(1)、32、287(1~3)、
 287(4~6)、539、91(1)

【次週当番表】

司式: KH 長老 奏楽: MA 礼拝: SM 長老
 献金: IA IM 受付: SM HH
 会堂準備: IY OY KS NY
 MH

看板: II 週報: KY お花: IK

【次週集会予定】

- 礼拝前: ・日曜学校 ・聖書輪読会 ・求道者会
- 礼拝後: ・牧師と語る会 ・お茶の会
- ・壮年/婦人/ダビデ各会 ・幼稚園理事会

週報

2025年度 教会標語

「主につながり、根を張り、枝をひろげて」

2026年 2月 1日

日本キリスト教団 上尾合同教会

牧師 武田 真治

〒362-0041 上尾市富士見2-3-33
TEL&FAX 048-771-6549